

ありだし
社協
だより



2023 11



小学校6年生児童代表が
毎号将来の夢を発信！
10年後、成長した姿を
地域の皆さんに発信します！



将来の夢

保田小学校 6年生



第3次有田市地域福祉活動計画で重点課題としている「当事者の課題共有」に対する取組です。

右の絵は、今回のインタビューに答えていただいた方が描いてくれました。



「みんなの居場所@有田市」

学校にいけない・いかない
小・中学生・高校生他 18歳
前後の子どもたちの居場所

2022年10月から
摂南大学や有田市出身
の大学生が運営してい
ます。

インタビュー

今回、インタビューにご協力いただいた方はひきこもりを乗り越え、現在は月に数回学校へ通い、普段は様々な場所で活動をしています。

これまでの経験から感じた、自身の思いを言葉にしてもらいました。

きっかけはコロナ休校

『小学校高学年の時、コロナの影響で急に学校へいけなくなり、家にいる時間が長くなったことから家族との関わりが難しいと感じ始めた。友達とゲーム通信をしている時だけそのことを忘れることができ、そこからひきこもり癖がつき、学校にいきづらくなった。』

「あきらめないで」と言われても「本当に無理なんですよ」

『ごはんを食べることができず、日光にも当たらず、とにかく息をすることに精一杯の日々。ベッドから天井を見るか、スマホを触るか。明日のことさえも考えることができない、何を言われてもマイナスに。あの頃は本当にダメだった。』

「いつ来てもいいよ」に救われ、外に出る理由ができた

初めて「みんなの居場所@有田市」に参加したとき、いろんな人がいて楽しい雰囲気だと感じたそうです。『その頃は、人とどう関わればいいのか分からなかったから、無理矢理自分の心の中に入ってくる感じや、全員が輪の中に入れられるということがなく、安心できた。この居場所は、逃げられる場所の1つ。逃げられる場所はいくつあってもいい。』



居場所の様子
お昼ごはんの会では、参加している子どもたちが率先して作業をします。

「放っておいて」でも、「学校にいけていないことは覚えていて」

最後に、心の中の思いを話していただきました。『学校にいけないことを肯定してほしいわけではないです。でも、「学校にいけないのはゲームをしたいからだ」などの想像で、学校にいけないことを否定しないでほしい。放っておいてほしい。でも学校にいけていないことは覚えていてほしい。本当に危ない時に手助けできるような環境を作っていてあげてほしい。』

◎インタビューの詳細は
公式ホームページ
「ワーカブログ」
に掲載しております。

学校にいけない子どもたちのうちの1人の声です。みんながこのような思いを持っているかはわかりません。しかし、最も可能性に溢れ、いろんなことに挑戦できる時期に、真っ暗闇の中で苦しんでいる子どもたちがいることは事実です。この事実を知っても、自分は何もできない不甲斐なさ、ひたすらに悔しさが溢れました。

『放っておいて』という言葉。私には『どうにか助け出して』と聞こえます。子どもたちの心が開いたとき、すぐに受け入れられる居場所を作っておくことが今の私にできることだと感じます。

(「みんなの居場所@有田市」運営チーム大学生)

3つの活動メニュー

<毎週金曜日 15:00 ~ 17:00> ※第4金曜除く



大学生がバーチャル空間で自由に過ごしています。いつ入っても出ても大丈夫！ふらっと立ち寄れるようなそんなオンラインの居場所です。ゲームをしたり・・・。カフェのような雰囲気です。



バーチャル空間 oVice

PCやスマホから入ることができるバーチャル空間

<毎月第2土曜日 11:00 ~ 15:00>



お昼ごはんを「作る」「食べる」「片付ける」居場所。公民館などの拠点をお借りしています。



2023.6.10
カレー

移住交流拠点施設
くらしやる矢櫃



2023.7.8
お好み焼き

地域交流拠点
宮原さん家



2023.8.5
流しそうめん

地域交流拠点
宮原さん家



2023.9.9
おにぎらず

初島公民館

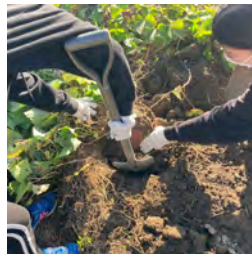
<毎月第4金曜日 13:30 ~ 16:00>



保田地区にあるヒミツキチで過ごす居場所。おやつを作ったり、遠足に行ったりすることも。



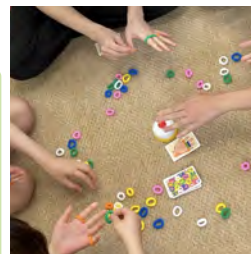
2022.11.25
書道/畑いじり



2023.4.28
遠足



2023.5.26
フライングディスク



2023.8.25
カードゲーム/ゼリーづくり



不登校に対する社会やご家族の考え方は本当に人それぞれです。ただ、子どもたちはどこで過ごしても等しく時は流れ、いつか社会に出る年齢になります。その時に、この場で受け止めてもらった経験が子どもたちを後押しできるように、さまざまな体験を学生たちと企画しています。

社協は、学校を拠点とした福祉教育だけでなく、地域の中で子どもたちの育ちを支え、自分の生き方を見つけられるように、多様な立場の皆さんと協働していきます。

事務局：宮本

いつも温かいご支援をいただき、ありがとうございます。

食材や場を提供していただける企業様、個人の皆様いらっしゃいましたら有田市社会福祉協議会までご連絡ください。

活動の様子・告知を
随時発信！→



ARIDA_NO_IBASHO



申込
←フォーム

ボランティア・市民活動スタートアップ講座のご案内

「やってみたい！」
 行動に変えて
 みませんか？



主催 有田市ボランティアセンター/有田市社会福祉協議会
 協力 有田市地域包括支援センター

無料
 先着順

【講座日程】 いずれも水曜日開催 単発受講・連続受講共に可
 【対象】 有田市在住 または 有田市通勤/通学者
 【参加申込】 電話 0737-88-2750 (平日8:30-17:15)
 または、申込フォームから



日	時間	内容	講師等	会場	定員
1月17日		講義「ボランティア・市民活動の意義」	摂南大学現代社会学部 上野山 裕士 氏		30人
1月31日	14:00 ～ 15:30	実践報告	・守友 孝文 氏 有償ボランティア活動 ・マモッチャクラブ 防災教育活動	有田市民会館 第2会議室	15人
2月14日		活動見学	野地区サロン 「野の花」	野みかん センター	15人
3月6日		活動団体マッチングサロン	現在活動中の団体等複数 (調整中：後日HP公開)	有田市民会館 ホワイエ	出入り 自由

受賞 おめでとうございます

本会の理事・評議員、事務局を担っている団体等から次の皆さまが受賞されました。

令和5年度和歌山県社会福祉功労者表彰

- ◆和歌山県知事感謝状
竹田 雄一 様 (民生委員・児童委員功労者)
- ◆和歌山県社会福祉協議会会長表彰
田中 悦子 様 (民生委員・児童委員功労者)
有田市障害児者父母の会 川口 弘 様
(社会福祉関係団体役員・職員功労者)
有田市身体障がい者連合会 丸市 敏子 様
(社会福祉関係団体役員・職員功労者)
川口 浩之 様 (社会福祉協議会役員・職員功労者)
福田 香織 様 (社会福祉協議会役員・職員功労者)

第66回和歌山県身体障害者福祉大会会長表彰

たちばな賞 桑原 安子 様

「認知症サポーター養成講座」出張

します！

平成29年度高齢者白書によると、2025年には高齢者の20%が認知症になるという推計もあります。この割合を単純に昨年度末の有田市高齢者人口で換算すると、1,800名ほどの高齢者が認知症になると見込まれます。

ご自身やご家族、ご近所の方が認知症になるというのは珍しいことではなくなるのかもしれませんが。

認知症に対する理解を深めていただくために、本会ケアマネージャーが地域の集まり、企業研修、お友達同士の会などへもお伺いします。

60分～90分程度の講座ですが、内容や形態等お気軽にご相談ください。

【お問合せ】 木原・川口
 0737-88-2750



「災害に備える」ために

有田市社協では、本年6月の大雨被害を受け、今一度災害について共に考え、行動していく方、団体の皆さんを求めています。

来年度から、災害時の課題点についてテーマ別に話し合う場(プラットフォーム)を開く予定です。
 「こんなことが不安だ!」「実際どうなってるの?」「これについて話し合いたい!」など、災害時に関するご意見をお寄せください。但し、今後の関係構築のために記名制といたします。ご協力いただける方は、右記QRよりお願いします。

